

令和5年度 研究のまとめ

(第22集)



目次

「令和5年度 研究のまとめ」の発刊に寄せて	
I. 校内研究の概要	1
II. 令和5年度研究実践	
1. 研究方法・経過	3
2. 成果と課題	
3. 今年度のまとめ	
あしがき	

山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校

「令和5年度 実践研究報告集」の発刊に寄せて

校長 小林 勝

知的障害者に対する教育を行う特別支援学校の教育課程は、現行学習指導要領にて、大きい変化の波にもまれています。「障害者の権利条約」の批准に向けた日本国の取組の中で、「インクルーシブ教育システム構築」が示され、既に10年以上となります。障害のあるお子さんもないお子さんも地域で共に学ぶことを目指すことが「インクルーシブ教育システム構築」ということができます。

また、「学びの連続性」も大きなキーワードとなり、学習指導要領における知的障害者の教科については、例えば小学校、中学校、知的障害特別支援学校の校種を行ったり来たりしても教育が途切れないよう共通化が図られ、次期学習指導要領では更に目標や内容が近づいていくことと思われまます。

このような中、知的障害特別支援学校の教育課程を見てみますと、合わせた指導については教科領域別に観点別評価を行うことが示されたことにより、全国的には「合わせた指導」から「教科・領域別指導」へと教育課程の編成を変更していく大きな波が全国的に起きています。

今年度、ふじかわ分校では、教育活動全般で行う「道徳教育」とそれをまとめ上げていく「特別の教科道徳」の指導に関して取り組むことといたしました。

教科別の指導については、学習指導要領を十分理解することで観点別評価は行いやすいと考えます。一方、領域の指導については、例えば「特別活動」「特別の教科道徳」をコマによる授業で行う方が目的を達成できるのか、または、合わせた指導の形態で他の教科と併せて体験的な学習を大切に指導を展開していく方が目標を達成できるのか、校内研究として取り上げ、取り組んでいくことといたしました。

この研究に関して、先行研究は少なく、極めて難しいテーマであることは言うまでもありません。ふじかわ分校は小中学部を設置する在籍者15名の小規模校であります。教師が在籍者ひとり一人との関わりが密にとれ、児童生徒に関する共通理解をとりやすいこの小規模校の特長を最大限生かし、「特別の教科 道徳」に関して研究を進めていくことといたしました。

本年度は文献研究や指導における各単元計画の現状と課題を洗い出し、「合わせた指導」として「特別の教科 道徳」の研究実践を行う方向としました。

今年度の研究が、次年度は更に実践検証を行うことにより知的障害特別支援学校における教育課程、更には小中学校の知的障害特別支援学級の教育課程に寄与できることを願い、校長以下職員が一丸となって研究を進めていく所存であります。

まずは、1年目である本年度の研究実践を取りまとめることができました。ご指導をいただきました山梨県庁義務教育課 主査・指導主事 小嶋庸子 様、特別支援教育・児童生徒支援課 主管・指導主事 田住 昌義 様に深く感謝申し上げるとともに、ご高覧いただきました皆様には忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

I 校内研究の概要

1 研究主題

「知的障害の児童生徒に対する道徳教育実践～教育課程上の『特別の教科道徳』の位置づけについて～」

2 研究主題設定について

平成31年4月1日から新たな学習指導要領が全面実施となり、小学部・中学部の第3章「特別の教科道徳」には、小学部・中学部の道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについては、小学校・中学校学習指導要領の第3章に示すものに準ずるとされている。加えて、障害のある児童生徒に対する3つの事項が従前の学習指導要領より引き継がれており、知的障害者である児童又は生徒に対する内容の指導に当たっては「個々の児童又は生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと」と示されている。

本校では、「特別の教科道徳」は、小学部・中学部ともに「各教科等を合わせた指導」の中で実施している。しかし、日常生活の指導、生活単元学習、遊びの指導（小学部）、作業学習（中学部）、どの合わせた指導に位置づけていくのかは、明確にはなっていない。また、各授業や日常生活の中で道徳性を養う指導は日々実践しているが、具体的なねらいや指導内容を設定するまでには至っていない。さらに道徳教育について多くの教員と話しをする中で知的障害特別支援学校における道徳教育に関する捉え方は、様々であると感じている。学校として、道徳教育の基本的な方針を共通理解していく必要がある。

以上の理由から今年度より2年計画で特別支援教育における特別の教科道徳に関する研究を進めることとする。

まずは、本校の道徳教育の現状・課題について把握し、共有するとともに「特別の教科道徳」の教育課程上での扱いを整理し、道徳の目標・内容を予め明確にして授業づくり・授業実践に取り組むこととする。そして、知的障害の児童生徒にとって効果的な道徳教育の指導方法について、成果と課題を明らかにする。

3 研究目標

- (1) 特別支援教育の道徳教育について、教師自身が学び、理解を深める。(1年次)
- (2) 本校の道徳教育の現状・課題について、共有する。(1年次)
- (3) 「特別の教科道徳」の位置づけについて、検討し整理する。(1年次)
- (4) 道徳教育に関する授業実践を重ね、児童生徒にとって効果的な道徳教育について成果と課題を明らかにする。(2年次)

4 研究計画

(1) 研究期間

令和5年度、6年度の2年間とする。

5 研究内容

(1) 特別支援教育の道德教育について、教師自身が学び、理解を深める。(1年次)

- ①「新時代を生きる力を育む 知的・発達障害のある子の道德教育実践 p10～p24」までをグループ毎に読み、知識を深め、学習したグループ毎に発表する。
- ②特別支援学校道德教育について、研修会を実施する。

(2)「特別の教科 道德」の位置づけを明確にする。(1年次)

- ① 学習指導要領内容項目と各児童生徒の個別の指導計画の合わせた指導を照らし合わせて、整理し、現状を把握する。
- ② 学部ごと、学校の教育目標・教育方針、学部の指導目標や児童の実態等を鑑み、4つの視点から重点指導項目を検討する。
- ③ 学部ごと、「特別の教科道德」をどの合わせた指導に位置付けるのかを検討する。また、その根拠を明確にする。

(3) 道德教育に関する授業づくり・授業実践(2年次)

- ① 合わせた指導の中の計画に、道德科の目標と内容を明確にして授業づくり・実践する。
- ②授業実践を行い、位置づけが妥当であるか検証する。
- ③知的障害の児童生徒にとって効果的な道德教育の指導方法について、成果と課題を明らかにする。

5 研究日程 (R5年度)

	日付	内容
①	5月11日(木)	全体研究会 今年度の校内研究の方向性、計画等の確認
②	5月24日(水)	文献研究(小グループで実施)①
③	6月2日(金)	文献研究(小グループで実施)②
④	6月21日(水)	文献研究 発表(グループごと)
⑤	7月5日(水)	道德教育に関する研修会 指導主事招聘(予定)
⑥	9月1日(水)	2学期の方向性について
⑦	9月22日(金)	内容項目と個別の指導計画を照らし合わせ、現状を把握し、整理する
⑧	10月6日(金)	内容項目と個別の指導計画を照らし合わせ、現状を把握し、整理する
⑨	10月23日(月)	事例紹介

⑩	11月13日(月)	学校の教育目標・教育方針、学部の指導目標や児童の実態等を鑑み、重点指導項目を検討する。
⑪	12月13日(水)	「特別の教科道徳」をどの合わせた指導に位置付けるのかを検討する。また、その理由も明確にする。
⑫	1月17日(水)	校内研究報告会に向けて
⑬	2月1日(木)	校内研究報告会 指導主事招聘
⑭	2月14日(水)	授業検討(単元・授業内容等を検討)

校内研修会 10月12日	高見澤幸恵作業療法士	児童生徒の困りごとへの対応に関する学習会～感覚の視点を踏まえて～
相互授業参観	12月4日～12月15日	小学部の教員が中学部の授業を参観
	1月15日～1月26日	中学部の教員が小学部の授業を参観

Ⅱ. 研究実践

1. 研究方法と経過

研究目標1：特別支援教育の道徳教育について、教師自身が学び、理解を深める。

【文献研究】

『新時代を生きる力を育む 知的・発達障害のある子の道徳教育実践』（監修：永田繁雄、編著：齋藤大地・水内豊和、著：松尾直博・細川かおり）を用いて、文献研究を行った。第1章～第2章を3グループ毎に読み、特別支援学校の道徳教育の基礎について、学びグループ毎に学びを深めた。最後に全体にグループ毎発表し、全体で共有した。

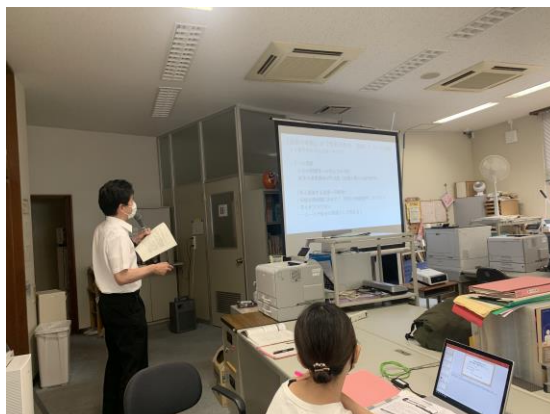
【道徳教育に関する研修会】

令和5年7月3日に道徳教育に関する研修会を実施した。山梨県教育庁義務教育課教育指導担当 小嶋庸子主査・指導主事と特別支援教育・指導生徒支援課の田住昌義指導主事を講師として、お招きした。小嶋指導主事には、「特別の教科道徳」に関する基礎研修として、①「特別の教科道徳」の教科化について ②道徳教育と「特別の教科道徳」③四つの視点と内容項目 の3本柱で研修をしていただいた。田住昌義指導主事には、「特別支援学校（知的障害支援学校）における特別の教科道徳」について、研修をしていただいた。知的障害特別支援学校の合わせた指導において道徳科を指導する際は、目標をしっかりと計画の中に入れること、また評価の方法等について指導助言いただいた。

【事例紹介】

10月23日に事例紹介を行った。知的障害の児童生徒に対する道徳教育の実践例は少な

く、どのように授業の中で「特別の教科 道徳」を指導していけばよいかイメージが湧かないという声が多く上がった。そこで、わかば支援学校高等部の授業を見学に行かせていただき、全体に共有した。また、NITS 独立行政法人教職員支援機構 校内研修シリーズ 「特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育～特別支援学級における指導の在り方：実践編（聖徳大学 吉本恒幸）：校内研修シリーズ No. 99」を視聴した。



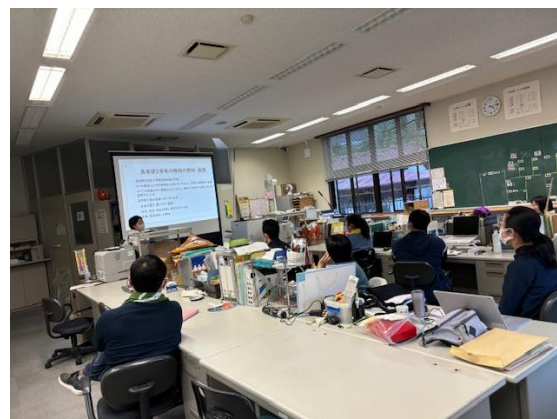
【文献研究発表】



【小嶋庸子主査・指導主事による研修】



【田住昌義指導主事による研修】



【事例紹介】

研究目標 2：本校の道徳教育の現状・課題について、共有する。

「特別の教科 道徳」の位置づけを明確にするために、まずは本校の現状と課題について整理していくこととした。各学年 1 名児童生徒の個別の指導計画、合わせた指導の各単元を見ながら、道徳科の内容項目表に道徳科の内容を扱っている単元を記入し、整理した。その結果から、どのような傾向が見られたか、学部毎に話し合いを行い、現状と課題を把握した。

道徳科の内容項目表【小学部】

1年生

「特別な教科 道徳」 現状把握と整理 小学部 1学年					
		生活単元学習	遊びの指導 (小のみ)	日常生活の指導	作業学習 (中のみ)
(A) 主として 自分自身 に関する こと	善悪の判断、自律 自由と責任	・給食のマナー		・身支度 ・掃除 ・係活動	
	正直、誠実			・人間関係	
	節度、節制			・身支度・掃除・係活動	
	個性の伸長	・進級について			
	希望と勇気 努力と強い意志	・進級について			
	真理の探求 (小56、中のみ)				
(B) 主として 人とのか かわりに かんする こと	親切、思いやり	・ふじかわ分校へようこそ ・卒業生をお祝いしよう	・誕生日会 ・お店屋さんごっこ	・人間関係	
	感謝	・卒業生をお祝いしよう	・誕生日会	・給食	
	礼儀	・わたしたちの町を知ろう	・お店屋さんごっこ	・給食	
	友情、信頼	・ふじかわ分校へようこそ ・クリスマス会をしよう ・卒業生をお祝いしよう	・風船あそび ・泥と水で遊ぶ ・色水あそび	・人間関係	
	相互理解、寛容 (小3～中)		・誕生日会		
(C) 主として 集団や社 会とのか かわりに 関するこ と	規則の尊重	・わたしたちの町を知ろう ・給食のマナー	・風船遊び ・お正月遊び	・身支度 ・掃除	
	公正、公平、社会正義				
	勤労、公共の精神	・わたしたちの町を知ろう ・おにぎり作り		・掃除 ・係活動	
	家族愛、家庭生活の充実	・おにぎり作り	・誕生日会		
	よりよい学校生活 集団生活の充実	・ふじかわ分校へようこそ	・劇遊び	・人間関係 ・掃除 ・係活動	
	伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	・わたしたちの町を知ろう ・冬の遊びを知ろう	・お正月遊び		
	国際理解、国際親善		・英語で遊ぶ		
(D) 主として 生命や自 然、遂行 なもの のかかわ り	生命の尊さ	・ひまわりを育てよう	・誕生日会	・給食	
	自然愛護	・ひまわりを育てよう ・おにぎり作り	・泥と水で遊ぶ		
	感動、畏敬の念	・ひまわりを育てよう	・色水遊び ・影絵遊び		
	よりよく生きる喜び (小5・6、中)				

4年生

「特別な教科 道徳」 現状把握と整理 小学部 4学年					
		生活単元学習	遊びの指導 (小のみ)	日常生活の指導	作業学習 (中のみ)
(A) 主として 自分自身 に関する こと	善悪の判断、自律 自由と責任				
	正直、誠実				
	節度、節制	・整理・整頓をしよう ・服を買いに行こう		・着替え	
	個性の伸長	・好きなことを伝えよう ・服を買いに行こう ・進級について			
	希望と勇気 努力と強い意志	・学校をきれいにしよう		・係 (献立表、予定表)	
	真理の探求 (小56、中のみ)				
(B) 主として 人とのか かわりに かんする こと	親切、思いやり		・誕生日会 ・お店屋さんごっこ		
	感謝	・卒業をお祝いしよう	・誕生日会	・給食	
	礼儀	・卒業をお祝いしよう	・お店屋さんごっこ		
	友情、信頼	・宿泊学習に向けて	・風船遊び ・泥と水で遊ぼう ・色水遊び		
	相互理解、寛容 (小3～中)	・卒業をお祝いしよう	・誕生日会		
(C) 主として 集団や社 会とのか かわりに 関すること	規則の尊重	・まわりを守ろう ・整理整頓 ・避難訓練事前 ・宿泊学習カレージづくり	・風船遊び ・お正月遊び	・係 ・準備、片付け	
	公正、公平、社会正義				
	勤労、公共の精神	・学校をきれいにしよう		・掃除	
	家族愛、家庭生活の充実		・誕生日会		
	よりよい学校生活 集団生活の充実	・学校をきれいにしよう ・進級について	・劇遊び	・掃除	
	伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度		・お正月遊び		
	国際理解、国際親善		・英語で遊ぼう		
(D) 主として 生命や自 然、遂行 なもの のかかわ り	生命の尊さ	・赤ちゃんが生まれるよ	・誕生日会		
	自然愛護	・季節を感じよう ・好きな植物を育てよう	・泥と水で遊ぼう		
	感動、畏敬の念		・色水遊び ・影絵遊び		
	よりよく生きる喜び (小5・6、中)				

6年生

「特別な教科 道徳」 現状把握と整理 小学部 6学年					
		生活単元学習	遊びの指導 (小のみ)	日常生活の指導	作業学習 (中のみ)
(A) 主として 自分自身 に関する こと	善悪の判断、自律 自由と責任			・身だしなみ	
	正直、誠実				
	節度、節制	・地球を守ろう ・調理実習		・身だしなみ ・清潔	
	個性の伸長	・卒業アルバムづくり			
	希望と勇気 努力と強い意志	・卒業に向けて			
	真理の探求 (小56、中のみ)	・磁石の不思議 ・ゴムや風の力			
(B) 主として 人とのか かわりに かんする こと	親切、思いやり		・お店屋さんごっこ		
	感謝	・上履きを洗おう ・調理実習	・誕生日会	・給食	
	礼儀	・いろいろな仕事	・お店屋さんごっこ	・身だしなみ ・給食 ・清潔 ・言葉遣い	
	友情、信頼	・調理実習 ・卒業に向けて ・窯づくり	・風船遊び ・色水遊び ・泥遊び	・決まりのある遊び	
	相互理解、寛容 (小3～中)	・ゴムや風の力 (実験)	・誕生日会	・言葉遣い	
(C) 主として 集団や社 会とのか かわりに 関すること	規則の尊重	・調理実習	・風船遊び ・正月遊び	・決まりのある遊び ・時間を守る	
	公正、公平、社会正義			・人間関係	
	勤労、公共の精神	・いろいろな仕事 ・窯づくり		・掃除 ・係活動	
	家族愛、家庭生活の充実	・上履きを洗おう ・卒業に向けて	・誕生日会	・手伝い	
	よりよい学校生活 集団生活の充実	・窯づくり ・卒業アルバムづくり ・卒業に向けて	・劇遊び	・決まりのある遊び ・係活動	
	伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度		・正月遊び	・給食	
	国際理解、国際親善		・英語で遊ぼう		
(D) 主として 生命や自 然、遂行 なもの のかかわ り	生命の尊さ	・卒業アルバムづくり	・誕生日会	・給食	
	自然愛護	・地球を守ろう	・泥遊び		
	感動、畏敬の念		・色水遊び ・影絵遊び		
	よりよく生きる喜び (小5・6、中)	・卒業に向けて			

道徳科の内容項目表【中学部】

「特別な教科 道徳」 現状把握と整理 中学部 1・3学年 ※中学部1学年は生単「卒業に向けて」の単元は含まない					
		生活単元学習	遊びの指導（小のみ）	日常生活の指導	作業学習（中のみ）
(A) 主として 自分自身 に関する こと	善悪の判断、自律 自由と責任				
	正直、誠実				
	節度、節制			・着替え・掃除・清潔・給食 ・係・朝の運動	
	個性の伸長	卒業に向けて(3学年のみ)			
	希望と勇気 努力と強い意志	朝・帰りの会		・掃除・係・	花の栽培
	真理の探求（小56、中のみ）				
(B) 主として 人とのか かわりに かんする こと	親切、思いやり				
	感謝	卒業に向けて			
	礼儀	外国語に親しもう		・休み時間 ・朝・帰りの会	製品づくり
	友情、信頼	お別れ校外学習		休み時間	
	相互理解、寛容（小3～中）				
(C) 主として 集団や社 会とのか かわりに 関すること	規則の尊重	お別れ校外学習		係	
	公正、公平、社会正義				
	勤労、公共の精神			・掃除・係・	・花の栽培・販売 ・窓ふき・染物
	家族愛、家庭生活の充実				
	よりよい学校生活 集団生活の充実	お別れ校外学習			
	伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	地域を知ろう 外国語に親しもう			
	国際理解、国際親善	外国語に親しもう			
(D) 主として 生命や自 然、遂行 なもの のかかわ り	生命の尊さ	富士川の生き物			
	自然愛護	・春探し・富士川の生き物 ・地域を知ろう			花の栽培
	感動、畏敬の念				
	よりよく生きる喜び (小5・6、中)				

【各学部の合わせた指導における、道徳科の内容を扱っている単元の現状と課題】

小学部

- ・高学年は、下学年におろして内容項目表を整理した。
- ・公正、公平、社会正義の項目をあまり扱っていないことが分かった。
- ・遊びの指導、生活単元学習は (A)【主として自分自身に関すること】が少なかった。遊びは、一つも入らず、B【主として人とのかわりに関すること】C【主として集団や社会

とのかかわりに関すること】D【主として生命や自然、遂行なものとのかかわりに関すること】に偏った。

・日常生活の指導は、D【主として生命や自然、遂行なものとのかかわりに関すること】が少なかった。

・一つの単元でいくつかの内容項目を扱っていたものが多かった。

・遊びの指導は、A【主として自分自身に関すること】をねらっていくことが難しい。

・内容項目表を意識することにより、道徳的内容が指導しやすくなる。

中学部

・思った以上に網羅している。「特別の教科 道徳」を合わせる明確な意識はしていなかったが、道徳的なねらいを盛り込んでいることがわかった。

・「善悪の判断、自律 自由と責任」は、個別の指導計画の「道徳」の欄には入っているが、合わせた指導には入っておらず、どこで指導しているか明記されておらず課題である。

・「真理の探究」や「相互理解」は発達段階が届いておらず難しい生徒が多い。

・「親切～」「よりよい学校生活～」は、異年齢での活動が指導しやすい(理解しやすい)ので、特別活動で扱っている。だが、「特別の教科道徳」としては特別活動に乘せられない。広い意味での「道徳教育」として特別活動に含めている。

・内容項目そのものが、特別支援の指導要領には「準ずる」としか書いておらず、特別支援の多くの教員はあまり目にするのがなかったのではないか。

研究目標3：「特別の教科 道徳」の位置づけについて、検討し整理する。

各学部で、「特別の教科 道徳」において重点的に指導したい内容を検討した。また、「特別の教科 道徳」をどの「合わせた指導」に位置付けていくかや、その理由を明確にするため協議した。

【小学部】

○「特別の教科道徳」において重点的に指導したい内容

「特別の教科道徳」の指導内容はA～Dの4つの視点に分かれており、Aは自分自身に関すること、Bは人とのかかわりに関すること、Cは集団や社会とのかかわりに関すること、Dは生命や自然、崇高なものとのかかわりに関することというように、児童にとっての対象の広がり即して示されている。本校の小学部の学部指導目標には、集団活動として「人や物とのかかわりを広げ、集団の中で活動する力を育てる。」とある。また、社会性として「様々な体験を通じて、身近な自然や社会に対する興味・関心を育てる」とある。小学部段階では集団で活動する前段階となる、自分以外の人や物への「興味・関心を育てること」、そしてそれらとのかかわりを「広げること」を大切にしながら指導を行っている。これらのことから、小学部としては「(B) 主として人とのかかわりに関すること」に重点をおいて

指導を行っていくことが、発達段階の点からも適しているのではないかと考えた。その中でも、自分以外の存在である友だちや教師を意識し、気持ちのいい挨拶や言葉遣い、動作を心がけて行動することや、お互いに理解し合ったり助け合ったりする等の相互方向のやりとりを目指すという点から、「礼儀」や「友情・信頼」に焦点をあてて、授業づくりや評価を行っていきたいと考える。

○「特別の教科道徳」をどの合わせた指導に位置づけて行っていくか、またその理由

「特別の教科道徳」の位置づけについては、小学部として「人とのかかわり」に重点をおくことから、学部で唯一の全学年で行う学習であり、より他者とかわる場面が多い「遊びの指導」の中に位置づけて取り扱うこととした。遊びの場面での様々な体験を通して、人や物とのかかわりの「もと」となる興味や関心を広げていきたい。また、子どもの実態に応じて、教師の支援の内容や方法等を十分に検討していくことで、子ども自身の気づきや主体的な学びを引き出し、より豊かな「人とのかかわり」さらには「集団や社会とのかかわり」につなげていきたいと考える。

【中学部】

○「特別の教科 道徳」において重点的に指導したい内容

中学部では生活年齢を切り口にして「特別の教科 道徳」の中で指導の重点を置きたい項目を検討した。中学部では小学部や小学校での指導の積み重ねにより、基本的な生活習慣や学校生活のリズム、学習態度がある程度身に付き、その成長をベースにして学習を組み立てることが多い。周りの人や物事とのかかわりが一層広がり、集団の中での学び合いが重視される。いわば「自己を育てる」段階から「他者の中での自己を育てる」段階へ重点がシフトしていく時期とも言える。これを踏まえた検討の中で〈集団活動〉と〈社会性〉の二つの項目が挙げられた。特に「(C) 主として集団や社会とのかかわりに関すること」の視点の中の「規則の尊重」や「よりよい学校生活」「集団生活の充実」を重点的に指導したいという意見が出された。

○「特別の教科 道徳」をどの「合わせた指導」に位置付けるか

学習指導要領には「知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと」(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第3章道徳)とある。「特別の教科 道徳」を学校教育全体で行う道徳教育の要として行う際に、知的障害のある生徒が理解・汎化しやすいように、本校では「特別の教科 道徳」を合わせた指導の中に位置付けて、体験的に学習できるようにしている。

上記の検討を踏まえて「特別の教科 道徳」における「規則の尊重」や「よりよい学校生活」「集団生活の充実」を重点的に扱うために、どの合わせた指導に位置付けたらよいか検討した。本校の中学部には日常生活の指導(職業・家庭(下学部の「生活」)、特別活動を合わせる)と生活単元学習(理科、社会を合わせる)の二つの合わせた指導がある。生活単元

学習では、校外学習に出かける際に公共の場でのマナーを守ることを学ぶ場面や、生活に則した課題を解決したり、自立的な生活に必要な事柄を学び合ったりする場面がある。また生活単元学習は集団での授業形態を取ることが多い。集団の中で他者とかかわりながら学び合い、自分の気持ちや考えを表現する側面もある。また地域の方々との交流及び共同学習を生活単元学習の中に位置付け、郷土の文化や食生活等を通して地域のお年寄りと触れ合うような学習も行われている。そこで、今回重点的に指導したい「規則の尊重」や「よりよい学校生活」「集団生活の充実」を生活単元学習に合わせて扱えるのではないかと仮説を立てた。

「特別の教科 道徳」の「(A) 主として自分自身に関する事」の「善悪」や「正直」等の生徒の内面に関する項目については個別に随時指導することが多いと思われる。生活単元学習の中だけで扱うことは難しく、それらの項目をどの合わせた指導で行ったらよいかについては、今後検討が必要である。

また特別支援学校においてはこれまでも児童生徒がよりよく生きられるよう、学習上又は生活上の困難を改善し、克服することをねらいとして自立活動の中で指導されてきた。いわゆる問題行動や荒れが見られた際にも、その背景にある発達的な課題に着目したり、認知のアンバランスさに注目したりして児童生徒の実態に応じて学習を組織し、教育課程を編成してきた。これらの学習活動と特別の教科道徳がどのように重なり合い、関連しているのかについても、整理が必要ではないかという意見が出された。この2点についても次年度の研究の中で検討していきたい。

2. 成果と課題

文献研究や指導主事を招聘し実施した研修会、事例紹介を行ったことにより、知的障害の児童生徒に対する「特別の教科道徳」についてイメージできたという声が多く聞かれ、年度末のアンケートでは「ある程度理解が深まった」の回答が多くを占めた。しかしながら、「各教科等を合わせた指導」に位置付けて指導している例は少なく、十分に深めていくことはできなかった。

学部ごとに行った、内容項目表のまとめや重点的に指導したい内容の検討では、現在行っている合わせた指導を道徳的な視点から見つめなおすことで、現状を知ることができ、来年度以降の授業づくりに向けてイメージを高めることができた。その中で、知的障害を有する児童生徒が在籍する本校においては、実態に応じて内容項目を下学年におろして指導することや、扱うことが実態的に難しいものがあることなどが確認された。また、児童生徒にとっての対象の広がりについて、自分自身→人とかかわり→集団→生命や自然へというように内容が広がることを確認され、重点的に指導したい内容は、小学部においては「(B) 主として人とかかわりに関すること」、中学部においては「(C) 主として集団や社会とかかわりに関すること」に関する内容の中から挙げられた。現状の授業づくりにおいても内容項目をある程度網羅して指導できていることがわかったが、内容項目表を意識することで、道徳的内容の指導がさらにしやすくなることも確認できた。

「特別の教科道徳」についてのイメージが高まり、本校における指導の現状や課題を把握できた一方で、学校生活全体で扱う道徳的な指導ではなく、授業時間の中でねらいを立てて指導することの難しさなど、今後の授業づくりについては不安の声も出された。

3. 今年度のまとめと来年度に向けて

本年度、「特別の教科 道徳」について校内研究を実施することにより、多くの教師が日々の授業実践を「道徳」という視点で見つめ直し、「特別の教科 道徳」の内容項目について知ることができた。これまで、個々の児童生徒の実態からねらいを立て、学校生活全体で指導してきたが、内容項目を知り、どの単元でそれらがねらえるか考える機会をもてたのは有意義であった。一方で、合わせた指導の中で、道徳的なねらいも盛り込んだ単元を設定して授業づくりや評価をしていくことへの不安や、指導の自由度が下がって窮屈になる懸念などを感じる教師も多かった。

2年次となる来年度、授業実践を通して「特別の教科 道徳」を「合わせた指導」で扱っていく上で、児童生徒にとって効果的な指導の仕方について、成果と課題を明らかにしていきたい。また、「特別の教科 道徳」のねらいを盛り込んだ授業づくりへの不安の軽減にもつなげていきたい。道徳的なねらいをより意識しやすくするために指導案の書式を検討したり、各学部から出された重点的に指導したい内容を、具体的な児童生徒一人ひとりの行動・姿として共通確認する機会を設定したりしながら研究を進めていきたい。